提出順	8	発言順	6	令和4年11月25日 (午前)・午後 11時10分受領

（ 3 枚中No. 1 ）

令和 4 年11月 25日

（宛先）安曇野市議会議長　　平林　明

安曇野市議会議員　大竹　啓正

一般質問発言通告書

下記のとおり、通告します。

議会名	令和 4 年安曇野市議会 12 月定例会		
発言の方法	☑一問一答　□一括質問一括答弁	質問時間	20 分
答弁を求める者	☑市 長　□副市長　□教育長　□他（　　）		
	担当部長 □総務部　□政策部　☑市民生活部　□福祉部　□保健医療部 □農林部　□商工観光スポーツ部　☑都市建設部　□危機管理監 □上下水道部　☑教育部　□他（　　）		
質問事項	交通安全と道路整備について		

質問の要旨（具体的に記載してください

(1) 第4次安曇野市交通安全計画にも盛られている、異種交通の分離計画は理想的であり、現実には歩道整備であると思う。事故防止には最も効果的であり、長年にわたり歩道整備は住民の悲願である。しかしながら、歩道整備は遅々とした進捗状況と思う、計画進行の具体策は。

(2) 交差点での事故防止には右折通行帯の設置が必要と考えられる。右折通行帯の設置が少なく、仕方なく危険走行をせざるを得ないというのが現実。松本走りと言われる不名誉な危険走行が全国に流布されている。必要個所の把握状況と計画の具体化は。

(3) 市道の多くが地域の生活道路として、さらに児童、生徒の通学路の役割。殆どが狭小幅員の悩みを持つ。計画書にもある、災害に備えた道路整備とあるように、幅員の狭い市道の改良が必要ではあるが、長年実現できない困難さを持つ、計画実行の具体策は。

(4) 自転車通行可能の標識のある歩道があるにも拘わらず、車道を通行する自転車。交差点を違反通行する自転車。運転免許非所有者に対する教育方法は。学校教育現場での交通教育の現状は。

(5) 交通安全は、重要な社会基盤である道路条件上に立脚している。この第4次交通安全計画は、道路整備を所管する都市建設部との摺り合わせの上策定されたものか。都市建設部においては、この計画案に基づく道路整備計画であるか。

提出順	8	発言順	6	令和 4 年 11 月 25 日 午前 午後 11 時 10 分受領

（ 3 枚中No. 1 ）

令和 4 年11月 25日

（宛先）安曇野市議会議長　平林　明

安曇野市議会議員　大竹　啓正

一般質問発言通告書

下記のとおり、通告します。

議会名	令和 4 年安曇野市議会 12 月定例会		
発言の方法	☑一問一答　□一括質問一括答弁	質問時間	
答弁を求める者	☑市　長　□副市長　□教育長　□他（　　）		
	担当部長 □総務部　□政策部　□市民生活部　□福祉部　□保健医療部 □農林部　□商工観光スポーツ部　□都市建設部　□危機管理監 □上下水道部　□教育部　□他（　　）		
質問事項	交通安全と道路整備について		

(6) 地方都市に共通課題として、高齢化に伴う移動手段の確保が深刻な問題として重くのしかかる。更に、人口密度が低く広大な面積を擁する自治体は道路整備とその維持、公共交通の運用と財政に負担が重い。将来的には高齢世帯を利便性が良い場所に移住することで社会基盤維持費用、交通対策費用などの節約を図る思い切った施策が必要と思う。市道改良は安全通行には不可欠であり、近い将来実現するであろう自動運転の移動手段に対応する道路環境整備についても、将来的構想をお聞かせいただきたい。市長に伺う。

提出順	8	発言順	6	令和4年11月25日 (午前)・午後 11時10分受領

（ 3 枚中No. 3 ）

令和 4年 11月 25日

（宛先）安曇野市議会議長　　平林　明

安曇野市議会議員　大竹　啓正

一般質問発言通告書

下記のとおり、通告します。

議会名	令和　4年安曇野市議会 12月定例会		
発言の方法	☑一問一答　□一括質問一括答弁	質問時間	
答弁を求める者	□市　長　□副市長　□教育長　□他（　　）		
	担当部長 □総務部　□政策部　□市民生活部　□福祉部　□保健医療部 □農林部　□商工観光スポーツ部　□都市建設部　☑危機管理監 □上下水道部　□教育部　□他（　　）		
質問事項	全国瞬時警報システムと避難訓練		

質問の要旨（具体的に記載してください）

(1) 天変地異によるもの、他国からの武力攻撃によるものまで災害から市民の生命、財産を守ることは国のみならず自治体の使命でもあると思う。自治体の責任の下、避難対策を講じる必要性を感ずる。地震、風水によるものはある程度の準備があり、その機能は期待できる。全国瞬時警報システムが設置されており、弾道弾に対する避難方法の検討は。

(2) 極めて危険な危険隣国を控えている中で、普通の感覚であれば極めて強い危機感を抱くはずであるといわれていても、多くの国民が平和ボケ症状を来たしており、警報が発せられても避難行動をとろうともしなかったと報道されている。極めて危険な状況と心配になる、これ程全てが日本列島に向けた発射実験が繰り返されている　現実を無視するがごとき無警戒極まりない状況に不安を覚える、せめて避難訓練ぐらいは実現を望む。